

令和7年4月 教育委員会定例会議事録

- | | | | |
|----------|------------------|------------|--|
| 1. 日 時 | 令和7年4月23日（月） | 午後2時00分 開会 | |
| | | 午後3時20分 閉会 | |
| 2. 件 名 | 河南町教育委員会定例会 | | |
| 3. 開催場所 | 河南町役場 庁舎3階 | | |
| 4. 出席委員 | 教 育 長 | 中川 修 | |
| | 教育長職務代理者 | 西川 幹雄 | |
| | 委 員 | 藤原 充 | |
| | 委 員 | 高井 美恵子 | |
| | 委 員 | 杉田 みはる | |
| 5. 事務局職員 | 教・育部長 | 和田 信一 | |
| | 教・育部理事兼指導主事 | 城者 貴典 | |
| | 教・育部副理事兼指導主事 | 柏木 俊介 | |
| | 教育課長 | 藤井 康裕 | |
| | 教・育部副理事兼こども1ばん課長 | 渡辺 恵子 | |
| | 生涯まなぶ課課長補佐 | 向井 妙 | |
| | 給食センター所長 | 浅井 明郎 | |

(審議内容)

教育長	<p>皆さんこんにちは。令和7年4月の教育委員会定例会を開催します。年度の初めですので、教育行政方針を読み上げさせていただきます。</p> <p>本町の教育長に就任してからはや3年が経過しました。教育委員会は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しながら、学校教育や生涯学習、スポーツ、文化芸術の振興及び文化財の保護など、非常に重い重責を担っております。</p> <p>我が国で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月に季節性インフルエンザと同じ5類に移行されたのを受け、学校や保育の場、スポーツ文化の分野を初め、社会のあらゆる場面でコロナ禍での見直しを踏まえ、アフターコロナの新たな形で様々な活動に取り組んでおります。</p> <p>その中には、子どもたちの笑顔も見られ、私も喜びを感じております。</p> <p>今後とも、委員の皆様、地域の皆様とともに、つなげるをキーワードとして、学校現場、そして町、町長部局とも連携しながら、本町の教育行政のさらなる推進に取り組んで参りたいと存じますので、よろしく願いいたします。</p> <p>さて、4月13日に2025大阪・関西万博が開幕いたしました。</p> <p>河南町からも大阪の祭りイベントで、5月の9日・10日に寛弘寺地区、中地区のだんじりが参加し、春夏秋の3回、町の特産物の販売を行う他、</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大阪芸術大学、近つ飛鳥博物館との協働により、作品展示などを行う予定と聞いております。私も昨年来、幾度も会場に足を運んでおりまして、4月6日にはテストランとして、駐車場からの所要時間、トイレや休憩所、救護所の状況などを確認してきました。児童生徒が楽しく安全に万博での校外学習ができるよう、学校とも連携して取り組んでいきます。

さて、本町では、河南町まちづくり計画に示すまちづくりの目標である「来てよし住んでよしのまち『あ・な・ば』かなん」の実現や、国の第4期教育振興基本計画及び大阪府の第2次教育振興基本計画を踏まえ、第2次河南町教育大綱を作成しております。

何度も申し上げますが、教育大綱は、「一人ひとりが輝き、笑顔あふれる人づくり」の基本理念のもと、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成を推進する」、「誰1人取り残さず、すべての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育を推進する」、「地域や家庭で共に支え合う社会の実現に向けた教育を推進する」、「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する」という4つの基本方針を定めており、今後とも、その達成をめざした取り組みを進めていきたいと考えております。

それでは新年度の教育行政の考え方と主な施策の概要について、第2次河南町教育大綱に掲げる基本目標に沿って申し上げます。

まず第1の目標、「確かな学力の定着と学びの深化」でございます。

「人格形成の基礎を培う幼児教育の充実」では、町独自の第2子以降の保育料無償化や、中村こども園の給食費完全無償化、幼児教育保育施設における副食費に加え、主食費も含めた給食費の助成支援など、多様な子育て支援施策を、積極的に推進していきます。また、多様化する保護者ニーズに対応すべく、子育ての悩みについて相談に応じる臨床心理士を配置したり、親子同士の交流の場であるおやこ園や子育てセンター、家庭保育が困難な場合などに一時預かりを行うポケットルームを引き続き実施するなど、安心して子育てができる施策を進めて参ります。

さらに、中村こども園において、就労要件を問わず、月一定時間までの利用可能枠の中で、時間単位で柔軟に利用できる「こども誰でも通園制度」を試行的に実施します。

「幼児教育の質の向上と、学校教育との円滑な接続」では、幼児期の教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うとともに、こども園などや小学校において育まれる資質能力を踏まえながら、校種間の発達段階に応じた教育活動の充実に努めて参ります。

また、子どもが小学校生活に期待感を持ち、一人ひとりが生き生きと自分らしさを発揮できるよう、小学校の体験入学や小学生と一緒に遊ぶなどの交流の促進に努めます。さらに、こ小中合同研修会や各校園の授業参観等を実施し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿や、小学校の教

育課程等を共有するなど、連携を行い、小学校教育との円滑な接続を図るよう努めて参ります。

「個別最適な学びと協働的な学びによる学びの深化」では、きめ細やかな少人数指導体制において、国語力の醸成とともに、算数・数学、英語の習熟度別教育などを実施し、各教科の基礎基本の確実な定着を図ります。

また、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた事業の改善を行い、一人一人の興味関心等に応じた学びの提供や、子ども同士の学び合いなどにつなげて参ります。

「グローバル社会を見据えた英語教育・ICT活用の推進」として、生きた英語に触れる機会を持てるよう、引き続き、小中学校に外国語指導助手ALTを配置し、中学校では英語検定受験を実施します。またGIGAスクール構想のもと、タブレット端末の更新を行うとともに、授業や家庭学習で活用できるデジタル教材を充実し、多様な児童生徒たちを誰1人取り残すことなく、効果的な授業づくり等に取り組みます。小学校におけるプログラミング教育では、体験を通じたプログラミング的思考や問題を解決しようとする態度を育むよう努めます。

「社会や地域とつながる探究的な学習の実践」では、学校の教育活動全体を通じた体験活動の充実や、主体的に社会に参画する意識の醸成に努めます。その実践の1つが、小学校5年生を対象とした身近な森林を活用した森林学習です。森林ESD事業を通じて、みずから進んで森林環境保全など、社会問題への関心を高め、SDGsの学びにも繋がるよう取り組んでおります。また、町内各小中学校では、校外学習として、大阪・関西万博体験を実施します。

「教員の資質能力の向上」ですが、教職員は子どもたちにとってかけがえのない存在であり、多種多様な教育課題への適切な対応が求められていることから、一人ひとりの教員がそれぞれのキャリア、経験や職責に応じて計画的に研修を受けるなど、自らの資質能力の向上に取り組みます。また、学校が日常的なOJTや計画的な研修を通じて、教職員全体の指導力向上に組織的に努めるとともに、教職員の評価育成システムの円滑な実施により、教職員の意欲、資質能力の向上と学校の活性化に努めます。

次に第2の豊かな心と健やかな体の育成でございます。

「不登校児童生徒への支援の推進」としまして、本町でも、不登校児童生徒が増加傾向にあることから、様々な課題を抱える児童生徒に向けた教育相談窓口の周知を強化するとともに、昨年度から教育支援センターの開設時間を8時40分から14時45分までとし、従来の12時までから2時間45分延長いたしました。そして、学校に指導員を派遣し、校内での居場所づくりを行う出張型教育支援センターについて中学校にも拡充して実施します。また1人1台端末を活用して教室と別室や自宅をオンラインでつなぎ、授業や学級の様子を視聴できるようにして、引き続き教育の機会充実に努めます。

「いじめ等への対応、人権教育の推進」として、いじめは絶対に許されないとの人権感覚を日頃から醸成し、自分とは異なる感性や感覚、言動を受容できる、いじめに向かわない集団づくりに努めます。また、いじめ対応セルフチェックシート等を活用し、いじめの早期発見や対処のあり方等について教職員の理解を深めるとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーやスクールロイヤーなどの専門家の協力を得て、日頃から教育相談体制の充実を図るよういたします。何より、子どもの考え、意見、思いを聞く、そういう姿勢を子どもに関わる大人が常に意識していくことが大切であると考えています。

「読書活動の充実」として、児童生徒が読書への興味関心を高め、主体的に読書活動を行うことができるよう、各小中学校に学校図書館司書を配置するとともに、公立図書館やボランティアとの連携を促進し、学校での読書環境づくりを進めていきます。

「学校給食・食育の充実」ですが、子どもの健康を支える基盤となる食は大変重要です。子どもたちが発達段階に応じて、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができる食育を推進するとともに、地産地消の観点から、町内産の食材を使った、給食の提供を引き続き行って参ります。

そして、子どもの五感を育むような献立づくりにも取り組みます。子どもの考えを取り入れた募集献立の実施や、郷土料理や旬の食材を活かした行事食の提供などにより、引き続き残食率の改善に取り組んでいきます。また、保護者の経済的負担軽減を目的に、令和4年度から給食費の全額助成を行っていましたが、令和7年度から恒久的に給食費を完全無償化するのに伴い、公会計化を実施します。なお、私立等に通う町在住の児童生徒に対する給食費の助成も開始します。今後も引き続き、学校給食法に定める学校給食実施基準及び衛生管理基準を遵守し、食の安全、安心を念頭に、学校給食を運営していきます。

この第1、第2の目標は、令和7年度、学校園教育指針としてもまとめております。そして、教育に携わる関係者は「教育は人なり」という言葉を肝に銘じながら、学校教育では、どの子どもに対しても、確かな学力・豊かな心・健やかな体の3つをバランスよく兼ね備えた生きる力、そして、保育幼児教育ではそのもとになる力を育成すべく尽力して参ります。

次に、第3の「学びを支える環境整備と指導體制の強化」です。

施設等の整備については、河南町学校施設等長寿命化計画に基づき、安全性、快適性、そして環境にも配慮した施設等の改修に努めて参ります。

本年度は、主に近つ飛鳥小学校及び中学校の照明設備のLED化に向けて実施設計を行うとともに、小学校2校の体育館にスポットクーラーの増設を実施します。平成24年に開設した公私連携幼保連携型の石川こども園においては、施設維持工事及び低年齢児の増員に対応するための増改築工事を実施します。

「学校園における働き方改革のさらなる推進」については、部活動に関連した教職員の働き方改革の一環として、部活動の地域移行について可能な限り早期の実現をめざすものとされています。本町での地域移行に关しましては、受け皿となる団体、指導者や活動場所の確保、教育課程との連携などの課題について、学校現場の意見や、近隣市町村等の動向も注視しながら慎重に検討し進めます

今後も中学校での部活動において、平日及び土・日曜日は少なくともそれぞれ1日以上活動の休養日とするなど、合理的でかつ、効果的な活動を行うとともに、陸上、吹奏楽、バスケットボールの3クラブに部活動支援員を新たに配置する予定です。

また、中学校においてAIによるデジタル採点支援システムを導入し、教員の採点事務の軽減を図ります。

次に第4の「地域コミュニティの基盤を支える社会教育及び生涯学び、活躍できる環境整備の推進」についてです。

「生涯を通じた文化芸術活動の推進」においては、中央公民館及び図書館を拠点とし、人生100年時代を見据えての生涯学習の充実に努めるとともに、文化協会をはじめ関係諸団体と連携し、地域の文化芸術活動を促進します。

大阪芸術大学近つ飛鳥博物館との共催事業や、各種公民館講座の内容の充実や子ども図書館祭り、人形劇や絵本の読み聞かせなどを通じた読書の普及啓発に取り組みます。

さらに次代を担う中学生を対象に、国際感覚や国際理解を深め、グローバル化の進展に対応した地域の振興に寄与する将来の人材を育成するため、中学生異文化体験研修や、イングリッシュキャンプを実施します。

なお、異文化体験研修は、近年国内の体験型英語学習施設で実施していましたが、今回はオーストラリアでの海外学習として実施する予定です。

「スポーツ活動の推進」については、総合体育館を拠点とし、各種スポーツ教室や、ボランティアのプールの一般開放など、町スポーツ推進委員等と連携し、町体育協会の協力も得ながら様々な事業を実施するとともに、令和5年度に、作成したスポーツ振興計画に基づきまして、地域住民のスポーツ活動の促進や地域スポーツの振興をめざします。

また総合体育館、総合運動場テニスコートにおける照明のLED化やテニスコート人工芝の全面張りかえなどを実施します。なお、テニスコートでは、リニューアル記念大会を実施する予定です。

以上、教育行政に関する主な施策について述べさせていただきました。

これらの施策を系統的かつ横断的につなげることで本町としてめざすゴール、「一人ひとりが輝き笑顔あふれる人づくり」を達成していくため、昨年度にKANAN BEAMの考えを打ち出しました。今年度は、そのKANAN BEAMの理念をより一層浸透深化させていきたいと考えています。

	<p>具体的には、地域との連携を密にするためのコミュニティスクール構想の取り組みとして、まず近つ飛鳥小学校に学校運営協議会を設置します。</p> <p>また、令和8年度に向けて、認知能力、非認知能力向上の取り組みを推進し、KANAN BEAMモデル校の取り組み、探求型学習の公開授業及び研究会、河南町児童会サミット、先進地への視察などの準備を進めます。</p> <p>後ほど、このKANAN BEAMの本年度の取り組みについて、担当指導主事の方からプレゼンをさせていただきます。</p> <p>教育委員会は、教育長と教育委員の皆様との合議制の執行機関であり、今後も委員の皆様との活発な委員会運営に努めて参りたいと思っております。</p> <p>昨今の教育を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。時代に即した教育行政を進めていくには、国、府はもちろんのこと、学校園現場との連携を密にし、また、子どもたちの成長を温かく見守り支えてくださっている地域の皆様への感謝と敬意を表するとともに、委員の皆様方のご意見を賜りながら、話題を1つ1つ着実に解決していきたい。そんなふうに思っておりますので、委員の皆様方におかれましては、今後も変わらぬご指導並びにご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます、本年度の教育行政推進にあたっての方針とさせていただきます。</p>
教育長	<p>それでは、本日の定例会への傍聴につきまして、その申し出はなかったことを報告いたします。次に本日の出席者は5名です。定足数を満たしていることをご報告いたします。次に会議録署名委員は、河南町教育委員会会議規則第17条の規定により、藤原委員に決定してよろしいでしょうか。</p> <p>ご異議ないようですので、会議録署名委員は藤原委員に決定いたしました。</p> <p>次に、諸報告その他に進めます。</p> <p>まず、「(1) 令和7年度 河南町立等学校園 校園長・教頭・副園長 氏名一覧について」、事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>「(1) 令和7年度 河南町立等学校園 校園長・教頭・副園長 氏名一覧について」、資料に基づき説明。</p>
教育長	<p>この件について何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>無いようですので、次に「(2) 令和7年度 学校組織について」、事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>「(2) 令和7年度 学校組織について」、資料に基づき説明。</p>
教育長	<p>この件について何かありますか。無いようですので、次に、「(3) 令和</p>

	7年度小中学校におけるいじめの状況調査（4～3月）について」、事務局の説明を求めます。
事務局	「(3) 令和7年度小中学校におけるいじめの状況調査（4～3月）について」、資料に基づき説明。
教育長	何かご意見、或いは質問等ございますでしょうか。 これは定期的に、皆さんにも提示させていただいていますが、国全体でも増加傾向にあり、その傾向は本町でも同様であるという状況です。 特に暴力行為についての数字をどうとらえていくかは、学校視察のときに現場を見て意見交換をし、どのようにに改善していくのか一緒に考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
委員	暴力行為についてですが、加害児童数、学年別っていう表がありますね。近つ飛鳥小、かなん桜が載っていますけども、比較すると、かなん桜小の方、暴力行為の人数がトータルで32。1年生で15。このような突出した数字が出ています。何か理由がわかれば教えてください。
事務局	今のところ、どこに原因があるかというのは、わかりません。
委員	はい、わかりました。
教育長	件数の多さの原因はまだ把握しきれていないのですが、今後も調査は継続していきます。 次に「(4) 令和7年度教育委員会主要事業について」、事務局の説明を求めます。
事務局	「(4) 令和7年度教育委員会主要事業について」、資料に基づき説明。
教育長	日程が未定なものもありますが、ご予定の中に組み入れておいていただければと思います。
事務局	学校訪問は、5月中旬から下旬の予定です。 その前にまずは事務局サイドで4月に視察に行こうと思っています。委員の皆さまには、2園2小1中の5ヶ所回っていただけたらと思っています。日程調整は事務局の方で、学校行事予定を確認して候補を挙げさせていただきます。
全員	はい。

教育長	<p>皆さんのご意見の中でも、年度の早い時期に実施をとというご提案なので、よろしくをお願いします。</p> <p>他にないようですので、次に「(5)令和7年度のKANAN BEAMについて」、説明させていただきます。</p>
事務局	<p>「(5)令和7年度のKANAN BEAMについて」、資料に基づき説明。</p>
委員	<p>すばらしい。</p>
教育長	<p>まず「学力向上」ということですが、これは単に点数を上げるためのものではありません。ここは皆さんとしっかり共有しておきたい。今まで、学調の点数を上げるためのものではないと言いながら、いざ結果が良くないと、いやいや点数よりもっと大事なものがあると言う、逆説的ですが結局のところ点数で結果の良否を見ていたわけです。</p> <p>今年度は点数だけでなく、相関関係も含めた検証を行っていく、そのためには下準備がかなり必要ですが、それは新たに始めるものではなく、非認知能力の向上ということで先生方がすでに取り組んできていて、これが認知能力の方にもつながっている、この点を学校全体で確認しておきたいです。</p> <p>小中学校で「生きる力」を育むと言われますが、その元になるもの、特に非認知能力はこども園での幼児教育によって大きく伸びるという研究成果が出ているので、これもしっかりとやっていきます。</p> <p>河南町は小規模自治体で2園2小1中しかないのですが、逆にこの小ささを活かしたきめ細かな指導という点を、今年度は改めて意識していこうと思います。</p> <p>そして、全ての教科に関わってくる言語能力の向上が重要ですね。先生方の負担も考慮して、CBT、いわゆるオンライン試験の形でやっていくことを考えています。CBT形式特有の不具合や、紙でやれば物理的に動かして考えるのに、という批判もあるでしょうが、まずCBTで取り組んだ上でいろいろとご意見もいただきながら進めていこうと思っています。</p> <p>では、「(6) その他」、何かありますか。</p>
事務局	<p>「図書館まつりについて」、資料に基づき説明。</p>
教育長	<p>他は何かありますか。</p>
委員	<p>いいですか。教育行政方針について、私見もまぜてお話ししたいことがあります。</p>

	<p>「学校教育における個別最適な学びと協働的な学びによる学びの深化」のところで、少人数によるきめ細やかな指導体制において、各教科の基礎基本の確実な定着を推進するうえで私が強調したいのは、国語力の醸成です。私には、この国語力をもっと幼児期から定着させたいという思いがあります。そのためには、学校で読書タイムを作って、全学生の子どもが一齐に本を読む、できれば音読で声に出して読むということをやりたいと思います。</p> <p>読書することによって生きる力が身につく。語彙力や読解力が身につく。集中力が養われる。もちろん、知識が増える。想像力が豊かになる。人の気持ちがわかりコミュニケーション能力が高まる。そして、自己肯定感が強くなる。気持ちが安定する。いろんな効果があります。</p> <p>認知症の進行が止められるという研究発表も私は見たことがあります。これだけの効果があるものを学校教育に、もっと積極的に取り入れてほしいと思います。</p> <p>また、言葉の知識とプラス運用能力、すなわち語彙力を高めるためには読書が最適です。脳科学者によると、人間がある行動を習慣化するための日数は66日間であるとのこと。66日間、毎日続けることによって、自然に身についていくのです。読書もそうだと思うので、本を読むという習慣をぜひKANAN BEAMにおいて進めていただきたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>おっしゃることはもう十分学校も承知しているので、今までの学校教育計画の中でも読書を重視してきました。敬語や謙譲語なども取り入れて、相手の気持ちを考えるなどの非認知能力も伸ばすことを系統的に分析しようかという視点もあります。</p> <p>今ご意見いただいたので、いかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>幼児教育についてですが、昨年度、中村こども園を見学させていただいたときに、前任の園長先生に課題は何ですかとお聞きしましたら、特に5歳児で支援や配慮の必要な子どもが増えてきていて、職員の配置や保育の進め方が課題のひとつであると言っておられました。今までは2・3歳児とのかかわりが大変で、先生の数も足りないという話だったのですが、今は5歳児が課題のようです。子どもたちが特性に合った小学校生活が送れるように、5歳児を対象とした教育相談が必要ではないかという話が出てきています。</p> <p>5歳児健診は決して発達障がいのある子どもを見つけるための検診ではなく、それぞれの子どもたちのいいところも、或いはできないことも含めて、保護者と連携して関わっていく必要があるのではないかという大学の先生の話がありました。</p> <p>いきなり小学校に入ってくると、受け入れる先生も戸惑うことがあるかもしれない。だから、そういう5歳の子どもの特性を小学校・園・保護者</p>

	<p>の3者がしっかり共有して取り組んでいく必要があると思います。</p> <p>5歳児への対応を充実していくという方向性を1つの大きな流れにしていただけたらうれしいと感じました。</p>
<p>教育長</p>	<p>今のご意見に対して何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校で1時限の時間を短くして、午前中に5時限やるような自治体も出てきているというニュースを見たので、例えば低学年とかは少し時間を短くしてあげたり、間に休み時間を挟むとか、そういう工夫はどんどんできそうだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど支援や配慮が必要な5歳児の話をしました。僕自身は発達障がいという言葉があまり好きではないですが、子どもに発達障がいがあるということを保護者が受け入れるのが非常に難しい、なかなか受け入れられないという場合があります。</p> <p>子どもの特性としてできないことがあっても、こんないいところもあるという話もするのですが、「決めつけられている」という受け止め方をする保護者もいて、学校との連携がうまくいかない。僕が現役の教諭だった頃は「養護学級」と呼んでいましたが、在籍児童が1人でも多い方が先生の加配もついて手厚く指導ができる。でも、保護者に入級を勧めても拒否されることがあって。</p> <p>今は障がい者理解、共生社会という考え方が根付いてきているので、保護者とよく話をして、子どもにとっていい方向に持っていけるようにすることが大事だと思います。</p> <p>中村こども園に視察に行かせてもらったときも、目を離さないようにしないといけない子がいました。そういう子どもの保護者に対して、定期的にアドバイスをするような体制をとっていく必要があると感じました。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっと話がそれてしまうかもしれないのですが、今月の学校だよりのことです。近つ飛鳥小学校の学校だよりは、支援学級について詳しく載せていらっしやっ。全ての保護者が読むかどうかは別にして、こんなふうに具体的にわかりやすく周知されるのは、すごくよいことだと思いますので、かなん桜小学校でも同じようにされたらいいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>今のお話について、他の方はどうですか。</p> <p>KANAN BEAM の「つながり」の中に支援教育の観点も入っていますし、いわゆる「小1プロブレム」の問題もあるので、園から小学校へのつながりは、特に支援や配慮を要する子ども達とその保護者にとって重要です。</p> <p>今、委員から、保護者との連携や保護者への周知の仕方に関するご意見をいただきましたが、保護者のケアという視点も持って、新たな学年の取</p>

	<p>り組みを始めていきたいと思えます。</p> <p>このたび新たに始める「こども誰でも通園制度」も、同じく保護者のケアという視点での事業です。孤立しがちな子育てについてどうしていいかわからないという保護者への支援ということで、就労の有無にかかわらず利用できる制度です。</p> <p>河南町ではこれに先立って、指導員が見守る中でいろいろな親子が集い、交流や横のつながりができるおやこ園という場を独自に提供してきていますが、これについても保護者との連携、保護者へのケアという視点を持つことが重要だと考えています。</p> <p>委員</p> <p>今年は JR 福知山線の脱線事故からちょうど 20 年になります。</p> <p>僕は当時、大阪市北区の小学校に勤務していて、残念なことに保護者の中にこの事故で重傷を負われた方がいたのです。それで、これは子ども達に話をせざるを得ないな、どう話したらいいかととても悩んだのです。</p> <p>一般的には、交通事故にあわないように信号を守りましょうとか、命を大切にしましょうとか、そういう話だと思うのですが、それで子ども達の心に響くかな、行動の改善につながるかなといろいろと悩みました。最終的に話したのが、事故にあった瞬間、自分は何でこういうことになるのだろうということを受け止められないまま亡くなった方もいたのではないかと、だからもう「命を大切に」とかではなくて、1日1日を大切に生きようと。何か起こっても、こんな事故は起こったらいけないけれども、もしもそんなことになっても悔いのないように生きよう、それが生き残った者の使命ではないか、としか、僕は子ども達に言えなかったのです。</p> <p>昨今、闇バイトとか、SNSで暗号資産を盗んだとかいう事件に中高生が関わっているケースがけっこうあるのを見ると、20年前に子ども達に話した「1日1日を大切に」というのは、そうそう間違いではなかったのかなと感じます。</p> <p>だから、町の子ども達にもこういう話を伝えていってほしいなあと、ちょうど20年目ということで新聞にも事故のことが大きく取り上げられていたので、話をさせていただきました。</p> <p>教育長</p> <p>ありがとうございました。では、これで本日の議事日程は全て終了しました。これをもって4月の定例会を閉会します。</p> <p>次回は5月27日火曜日の13時からです。6月定例会は6月30日月曜日の14時からです。では、今日はお疲れ様でした。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和 年 月 日

教育長名

署名委員名